

【海外統計事情】

## 国際学会「経済再建 — 資源とメカニズム —」

(ロシア・サンクトペテルブルグ, 2010年1月)<sup>1)</sup>

山口秋義\*

### 1. 開催の経緯

2010年1月25日から27日まで標記の会議が開催された。組織委員会は、ロシア科学アカデミー社会学研究所、連邦国家統計庁サンクトペテルブルグ・レニングラード州地方機関 (PETROSTAT)、国立サンクトペテルブルグ経済財政大学 (FINEC) とが中心となり構成された。また開催経費はロシア基礎科学財団<sup>2)</sup>から助成された。同主催者による統計学会議は2008年1月27日-30日に行われた「社会と権力との対話における統計」<sup>3)</sup>について2回目である。2008年金融危機以降の不況克服を目指した各国の政策における統計の役割に注目しながら、今回の学会における主要なテーマとして次の6つが挙げられた。すなわち、①国家の調整機能と市場メカニズム — 最適相互作用の探求 — ②資源採取依存経済からの脱却手段としてのイノベーション — 世界の実例とロシアの諸問題 — ③企業業績の会計評価と証券市場情報の信憑性④人的要因 — 人間の意識と行動の計測：構造的相互作用 — ⑤経済循環と移民 — ロシアと諸外国における労働移民の諸特徴：人口動態と世代間交替 — ⑥環境問題への挑戦と安定成長、とである。プログラム委員会の構成員は、委員長ヴェ・エル・マカロフ (ロシア科学アカデミー正会員)、副委員長イ・イ・エリセー

エワ (ロシア科学アカデミー準会員、ロシア科学アカデミー社会学研究所長)、副委員長イ・ア・マクシムツェフ (FINEC学長)、エス・ア・アイヴァジャン (ロシア科学アカデミー中央経済数理研究所副所長)、エル・ア・アノソワ (ロシア、経済学博士)、ウィレム・デ・ヴリス (オランダ)、ヴェ・ヴェ・オクレピロフ (ロシア科学アカデミー準会員、ロシア科学アカデミーサンクトペテルブルグ研究センター副所長)、エル・ア・ルホヴェツ (ロシア科学アカデミーサンクトペテルブルグ経済数理研究所長)、ア・イエ・スリノフ (ロシア連邦国家統計庁長官)、ジェ・テ・トシチェンコ (ロシア科学アカデミー準会員)、ハンス・ゲルハルト・シュトロエ (ドイツポツダム大学教授)、アンジェイ・ゴスポダロヴィチ (ポーランドヴロツラフ経済大学教授)、山口秋義、とであった。参加者は、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタン、ブルガリア、ポーランド、ドイツ、オランダ、イタリア、中国および日本 (筆者だけ) からの193名であった。その内訳は、全体会における20分間の発表をした者が20名、分科会における10分間の発表をした者が110名、予稿集に報告要旨を掲載し口頭発表をしない参加形態の者が40名、発表をしない参加者が23名、であった。

### 2. 全体会と分科会の概要

学会前日の1月24日(日)にエラギン宮殿と仏教寺院を巡るエクスカージョンがあった。

\* 九州国際大学経済学部  
〒805-8512 北九州市八幡東区平野1-6-1  
E-mail: a-yamaguchi@econ.kiu.ac.jp

初日1月25日(月)の会場は、最後の皇帝ニコライ2世の伯父であるヴェ・ア・ロマノフ大公の宮殿であった。現在はマクシム・ゴロキ記念学者の家と改称されロシア科学アカデミーが管理する施設となっている。またこれはNHK『坂の上の雲』における舞踏会シーンの撮影が行われた建物でもある。

午前9時から受付が始まり10時から11時まで開会式が行われた。開会式において挨拶を述べた人たちは順に、イ・ヴェ・ルキヤノフ(ロシア連邦北西管区大統領次席全権)、ヴェ・ヴェ・オクレピロフ(前出)、エ・ア・トロップ(ロシア科学アカデミーサンクトペテルブルグ研究センター主任研究員)、アダ・ヴァン・クリンペン(Director ISI)(英語による)、エス・ア・アイヴァジャン(前出)、アイ・レウスキー(FINEC副学長)、エル・エリモノフ(国際研究機構レオンチェフセンター所長)、オ・エヌ・ニキフォロフ(PETRO-STAT長官)、イ・イ・エリセーエワ(大会組織委員長)、とであった。またマクシムツェフFINEC学長からの挨拶のビデオが映じられた。11時にコーヒープレイクに入り、皇族がかつて利用していた食堂において焼きたてのピロシキが振舞われた。

11時30分から13時まで全体会が行われ各自20分間の報告を行った。報告者とテーマは順に、エリセーエワ「経済再建 — 資源とメカニズム —」、アイヴァジャン「経済イノベーションの計測と経済発展におけるその役割」、ルホヴェツ「環境経済の諸問題と安定的発展」、アダ・ヴァン・クリンペン「国際統計学界 — 過去と未来 —」(報告は英語で行われロシア語へ逐次通訳された)、であった。13時から14時30分まで昼食のための休憩に入り、この時間を利用して希望者は、会場となった宮殿のエクスカッションに参加することができた。

14時30分に全体会が再開された。報告者とテーマを順に示しておく。ア・ペ・ザオス

トロフツェフ(FINEC教授)「国家と市場」、ア・イ・シシキン(科学アカデミーカレリヤ経済研究所長、ペトロザヴォーツク)「現代国家の全く新しい役割」、テ・ヴェ・モロゾワ(同研究所)「北部国境地方経済近代化におけるインスティテューショナルクラスターの役割」、ゴスポダロヴィチ(前出)、マグダレナ・カラジンスカ(ヴロツラフ)「1990年以降ポーランドにおける金融理論の発展」(報告はゴスポダロヴィチが行いポーランド銀行統計の問題点について言及した)、エス・チュ・ボクン(ベラルーシ国立経済大学準教授、ミンスク)「闇経済の規模計測と統制の可能性」。

16時からコーヒープレイクに入り16時30分から全体会が再開された。報告者とテーマは次の通りである。エム・ア・クルプト(FINEC教授)「経済循環と移民 — 国家間分析 —」、山口秋義「日本における雇用統計指標の真実性の問題」、ヴェ・ヴェ・コズロフスキー(サンクトペテルブルグ大学教授)「労働移民の缺状的特徴 — ロシアの文脈において —」、ヴェ・ヴェ・イオンツェフ(モスクワ大学教授)「ロシアの経済再編における国際労働移民の今日の役割」、ヴェ・カ・ドンチェンコ(科学アカデミーサンクトペテルブルグ環境安全研究センター長)「ロシアの環境保全」、ニキフォロフ(前出)「ロシア地方自治体のイノベーション促進政策に必要な情報提供への統計的視角」。会場に最後まで残った参加者との記念撮影のあと、18時30分から宮殿内レストランにおいて懇親会が行われた。およそ50名が参加し和やかな雰囲気でご飯を食した。

第2日目1月26日(火)は会場をFINECキャンパスへ移し次の5つの分科会にわかれて進められた。分科会における発言は各自10分間であり、原則として質疑はなかった。第1分科会「国家の調整機能と市場メカニズム：最適相互作用の探求」第2分科会「技術革新 — 計量経済モデルと経済再建見通し —」第

3分科会「経済循環と移民—人口と世代間交代—」第4分科会「経済主体の財務状況と証券市場とに関する情報の信頼性」第5分科会「環境問題への挑戦と安定成長」。各分科会における報告者名とテーマは割愛する<sup>4)</sup>。

第3日目1月27日(水)に全体会がFINECキャンパスにおいて行われた。10時から11時45分まで次の順に報告が行われた。エヌ・ヴェ・ゲネラルワ(サンクトペテルブルグ大学準教授)「金融報告の信頼性」、エム・エル・エフィモワ(モスクワ行政大学統計学講座長)「国家行政機関職員の数と構成の傾向分析」、オ・デ・ツェピロワ(ノボシビルスク経済行政大学統計学講座)、エル・カ・セルガ(同)「ロシアにおける中小企業政策の問題によせて」。11時45分からコーヒープレイクに入り12時から閉会式が行われた。大会組織委員長のエリセーエワが結語を述べ、各経済統計の真实性の検討が金融危機後一層重要となっていることが強調された。昼食後14時30分からユスポフ宮殿へのエクスカーションがあった。

### 3. むすびにかえて

第1日目に行われたエリセーエワ報告「経済再建：資源とメカニズム」はいわば「基調報告」として位置づけられ、今回の会議の課題を提起する内容をもつ。彼女は2008年の金融危機以降各国において国家の市場への積極的介入が見られ、これと市場の調整力とをどのように組み合わせるかという問題がこの

会議の課題であると述べた。ロシアにおいて今次経済不況からの脱出策だけでなく、資源依存型経済から生産主導型経済への移行というより長期に亘る課題において、技術革新とこれを促進する国家の役割とが注目されていると述べた。さらにロシア経済再建の方策を、①国家による企業救済②税制改革③銀行制度強化④会計制度と統計制度の統合的発展⑤企業間競争の促進、との5つに分け、それぞれに必要な部門統計の真实性を検討することが今日一層重要であると述べた。また国際統計協会(ISI) Directorのアダ・ヴァン・クリンペンは「国際統計学界—過去と未来—」と題する報告の中で、1853年の万国統計会議発足以降の国際統計学界とロシアとの関係について触れ、特に1872年サンクトペテルブルグにおいて開催された第7回大会とケトラーの役割について言及した。また昨年改訂されたISI職業倫理宣言と1994年の国連政府統計基本原則とにふれた。プログラム委員のデ・ヴリスの文献<sup>5)</sup>を示しながら、両者には多くの共通点があるものの大きな相違点があると述べた。さらにロシアからのISIへの参加者が少ないことにも触れ、ISIへのより多くの参加をもとめた。

またヤ・デ・シリャーエワ(FINEC準教授)による「非合法活動の推計—政府統計を利用した各国の例—」の他、わが国において研究が少ない分野である未観測経済に関する幾つかの報告があり興味深かった。

### 注

- 1) Международная научно-практическая конференция «Реструктурирование экономики : ресурсы и механизмы», Санкт-Петербург, 25-27 января 2010г.
- 2) Российский фонд фундаментальных исследований
- 3) Н.А. Флуд, Статистика в диалоге общества и власти (Итоги Международной научно-практической конференции). «Вопросы статистики» 2008, №. 3, стр. 70-77.
- 4) 詳細は次のサイトにおけるプログラムを参照のこと。www.finec.ru
- 5) Willem de Vries and Sabine Warschburger, *Distant cousins or close relatives? A comparison between the ISI Declaration of Professional Ethics and the UN Fundamental Principles of Official Statistics*, NY, 2002. (筆者未入手)

## 常任理事会からのお知らせ

### 1. 2009年度（2009年9月～2010年8月）常任理事会の編成

学会長	木村和範
常任理事長	森 博美（渉外担当を兼務）
全国プログラム委員長	坂田幸繁
全国会計	大井達雄
編集委員長	光藤 昇（2010年4月から山田 茂）
HP委員会委員長	池田 伸
ニュースレター担当	御園謙吉
無任所	山田 満（以上、8名）

### 2. 2010-11年度理事選出選挙の実施と承認

2009年11月に行った理事選出選挙の結果が選挙管理委員長より12月7日付けで常任理事会に対して報告された。常任委員会ではその報告に基づき下記の各会員を2010-2011年度の理事候補として理事会に諮り、承認を得た。なお、理事の任期は、2010年4月1日から2012年3月31日まで。

伊藤伸介, 岩崎俊夫, 小川雅弘, 金子治平, 木村和範, 坂田幸繁, 杉橋やよい, 田浦 元, 田中 力, 長澤克重, 西村善博, 深川通寛, 福島利夫, 藤井輝明, 前田修也, 松川太一郎, 光藤 昇, 水野谷武志, 山田 茂, 吉田 央（以上、20名 50音順）

以上